

Slovenia Monthly September 2020



スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2020年10月15日

～9月の主なポイント～

- 内政： ホイス内相、辞任を撤回
国民議会、2020年度補正予算案を可決
- 外政： スロベニア外交総会の開催
バッハIOC会長のスロベニア訪問
- 経済： マクロ経済分析研究所、本年のGDP成長率予測値を上方修正
- 社会： スロベニア初の衛星、打ち上げに成功

政治

【内政】

●新スロベニア(NSi)設立20周年【4日】

連立与党の一角を担う新スロベニア(NSi)が党設立20周年の記念式典を開催した。トニンNSi党首は、式典でのスピーチにおいて、NSiは国内の左派と右派をつなぐ架け橋として、スロベニアを団結させることができると述べ、欧州においても団結のみが成功を導くことができると述べた。また、同式典には欧州人民党(EPP)のトゥスク党首も参加し、スロベニアには強いキリスト教民主主義の政党が必要であり、また、欧州もNSiを必要としていると述べたほか、スロベニアは来年EU議長国に就任予定であり、議長国として成功するためには、ヤンシャ首相は関与する全ての者からの支援及び協力が必要となる旨述べた。

●ピヴェツ年金者党党首、党首の座を辞任【9日】

9日、年金者党(DeSUS)のピヴェツ党首が党首の座を辞任した。同党首を巡っては、汚職疑惑等により8月にDeSUS幹部会がピヴェツ党首の不信任案を採択したが、ピヴェツ党首は、党首解任を行う権限は党大会にのみあり、党幹部会に党首解任の権限はないと主張していたが、今般辞任を決意した。党員宛に出した書簡において、ピヴェツ党首は、近い将来に法的に正しい方法で解決策が得られないことがないと感じ、辞任によりこの騒動を終わらせることとしたと述べた。また、同党首は、党側はあらゆる法的基準を無視していると述べ、自分はある種のクーデターの被害者であると述べた。同党首は、党員からの強い草の根的支援が得られるようであれば、次回の党大会において再び党首選に立候補する意向を示したほか、党首辞任は大臣の職とは関係がないとして、農林食糧相に引き続き留まる旨述べた(注:その後、10月5日にピヴェツ農林食糧相は大臣からの辞任及びDeSUSからの離党を表明)。なお、DeSUS報道官の発表によると、次回の党大会において新党首が選出されるまでは、ガンタル保健大臣が党首代行を務める。



(Photo: Gregor Mlakar/STA)

●ホイス内相、辞任を撤回【19日、21日】

19日、野党4党(マリヤン・シャレツリスト党(LMS)、社会民主党(SD)、左派(Left)、アレンカ・ブラトウシク同盟(SAB))が提出したホイス内相に対する不信任決議案が国民議会において議論され、賛成38、反対43で否決された。不信任決議案否決後、ホイス内相は、21日にヤンシャ首相と面会し、今後の協力につき話をすると述べ、不信任決議案が否決されたことは自身(「ホ」内相)が内務大臣に留まるかどうかを決める要素のひとつになるだろうと述べた。

21日、ホイス内相はヤンシャ首相との面会を行った。面会后、同内相は報道陣に対し、ヤンシャ首相から(ホイス内相が本年6月に提出した)辞表の返却があったことを明かし、内務大臣からの辞任を撤回し、今後も大臣の職に留まることを決意した旨述べた。一方で、ホイス内相は、自身が大臣を辞任しようとした原因については依然として存在していると述べ、警察の最重要機関である警察庁及び刑事局は非政治化されなければならないと述べたほか、検察及び司法当局により徹底的に捜査されていない多数の事案が存在することも問題であると述べた。

●経済開発・技術副大臣にツェデルマン氏が就任【21日】

政府は、カンタルティ副大臣の辞任により空席となっていた経済開発・技術副大臣のポストに、ツェデルマン投資促進庁(SPIRIT)長官を任命した。なお、ツェデルマン長官が副大臣に就任したため一時的に空席となるSPIRIT長官ポストについては、国防省等で勤務経験のあるトマジュ・コスタニェヴェツ氏が長官代行を務めることが発表された。



(Photo: 在スロベニア日本国大使館)

●国民議会、2020年補正予算案を可決【23日】

23日、国民議会は2020年補正予算案を可決した。同補正予算は歳入91億9千万ユーロ、歳出133億9千万ユーロを想定しており、当初予算より歳入が約15%減、歳出が約29%増となっている。補正予算案への投票に先立ち、ヤンシャ首相は、約42億ユーロの赤字は決して少額ではないが、スロベニア経済

復興のために必要となる予算である旨説明した。また、シルツェル財務大臣は、赤字は一時的なものであり、今後赤字が減少し、再び黒字化することを期待していると述べた。一方、野党側は、補正予算案は透明性に欠けており、新型コロナウイルス対策とは関係のない予算も計上されているとして批判した。

●国民議会、日曜日・祝日の店舗営業を禁止する法案を可決【29日】

国民議会は、一部例外を除き日曜日及び祝日の店舗営業を禁止する法案を賛成72、反対13で可決した。同法により、日曜日及び祝日の店舗の営業は原則禁止となるが、ガソリンスタンド、国境、港、空港、鉄道・バス等の駅、病院等に設置されている200㎡以下の小店舗及び従業員を勤務させずにオーナーや学生、年金生活者が対応する小規模店舗は例外となる。同法は10月24日に発効予定。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

【外政】

●ヤンシャ首相、オルバーン・ハンガリー首相と会談【1日】

1日、ヤンシャ首相は、ブレッド戦略フォーラムに参加するためスロベニアを訪問したオルバーン・ハンガリー首相と会談を行った。両者は、両国に居住するそれぞれの少数民族(スロベニアのハンガリー系住民、ハンガリーのスロベニア系住民)に対するサポートを表明するとともに、二国間のプロジェクトを通じて様々な分野で協力を促進していく旨呼びかけた。また、ヤンシャ首相は、新型コロナウイルス流行期間中のハンガリーからのサポート及び連帯に謝意を表明した。その他、両者は、中欧地域における戦略的協力の重要性についても強調した。

●ヤンシャ首相、ツイッター上でチェコ上院議長の訪台に関してチェコへの支持を表明【2日】

ヴィストゥルチル・チェコ上院議長が台湾を訪問したことで、中国・チェコ間の緊張が高まっている件に関し、2日、ヤンシャ首相は自身のツイッター上で、チェコを支持する旨の以下のコメントを投稿発言した。「スロベニアはチェコを支持する。EU・中国関係は、対話と相互の尊重が土台となっている。EU加盟国及びその代表者に対する脅しは、我々のパートナーシップの本質とは相反するものであり、容認することはできない。」

●外務省、ロシアの政治家ナヴァリヌ氏に対する毒物使用を非難【2日】

2日、スロベニア外務省は、ドイツ政府がロシアの野党政治家ナヴァリヌ氏から毒物使用の証拠が発見されたと発表したことを受け、公式ツイッターで以下のコメントを発表した。「今般明らかとなったナヴァリヌ氏に対する毒物使用を強く非難する。ロシア連邦政府が、本件に関し直ちに調査し、国際社会と協力することを期待する。」

●欧州司法裁判所法務官、スロベニアはEU法に違反したとの見解を発表【3日】

2013年の銀行救済案件に関する不良債権の水増し疑惑に係る捜査に際し、スロベニア捜査当局がスロベニア中央銀行から欧州中央銀行(ECB)の書類を没収した件に関し、欧州委員会がスロベニアによるECB文書の差し押さえは不当であるとして欧州司法裁判所にスロベニアを訴えていた問題で、3日、欧州司法裁判所法務官は、ECB文書の没収は同銀行に付与された特権を侵すものであり、スロベニアはEU法に違反した旨の見解を発表した。同法務官の見解発表を受け、欧州委員会は歓迎の意を表した一方、コズロビッチ・スロベニア法務大臣は、未だ判決が下されたわけではなく、これは勝利と敗北のどちらでも

ないとコメントした。なお、欧州司法裁判所法務官の見解は、裁判所が判決を下すにあたっての法的拘束性はない。

●仏欧州・外務相のスロベニア訪問【3日～4日】

3日、ロガル外相はスロベニアを訪問したル・ドリアン仏欧州・外務相と会談を行った。ロガル外相は、政治、経済及びその他の分野で両国間の協力を促進していくことがスロベニア政府の利益となる旨強調したほか、二国間の経済関係の更なる促進を呼びかけた。また、会談では欧州及び国際情勢についても意見交換を行い、両国は各種問題に対して多くの共通の見解を有していることが確認された。そのほか、両外相は、本年秋に開始され、スロベニアのEU議長国期間中に継続し、仏の議長国期間中に終了する「欧州の将来に関する会議」、西バルカン情勢、EU拡大プロセスについても意見交換を行った。

4日、ル・ドリアン仏欧州・外務相は、スロベニア外交総会においてスピーチを行い、同総会会場にてヤンシャ首相と会談した。両者は、経済協力を含むスロベニア・フランス間の協力について意見交換を行い、ヤンシャ首相は、スロベニアのEU議長国における優先事項を説明した。また、両者は、ベラルーシ及び東地中海の状況に焦点を当てて議論したほか、新型コロナウイルスの蔓延を阻止するための取組について意見交換を行った。そのほか、ル・ドリアン欧州・外務相は、スロベニア滞在中、パホル大統領とも会談を行った。



(Photo: Ministry of Foreign Affairs, STA)

●スロベニア外交総会の開催【3日～4日】

3日から4日にかけて、スロベニア外務省は各国に駐在するスロベニア大使、総領事等を集めた外交総会を開催した。同総会において、ロガル外相は、スロベニア外交の中心柱としてEU及びNATOの役割を強調し、スロベニアは、国際社会において、単なるオブザーバーではなく、責任ある一員となり、再び外交において自身の利益を理解し追求する国として

見なされることが重要であると述べた。また、同外相は、今後の主要課題として、新型コロナを含む世界情勢の評価、欧州・米国間の関係深化、EU議長国就任に向けた準備、近隣諸国及び中欧におけるインフラ統合の4点を挙げた。そのほか、同総会にはヤンシャ首相も出席し、主に英国離脱後のEU、新型コロナウイルスへの対応、スロベニアの対EU外交に関するスピーチを行った。

●オーストリア首相のスロベニア訪問【8日】

8日、クルツ・オーストリア首相がスロベニアを訪問し、ヤンシャ首相と会談を行った。両首相は、新型コロナウイルスの影響で今秋に再びロックダウンが導入されることは避けなければならない旨で一致し、ヤンシャ首相は流行初期における対策においてスロベニアはオーストリアを参考にしてきたと述べ、ウイルスの脅威は収まっておらず、新規感染者が欧州中で増加傾向にあるが、最近では深刻化するケース及び死亡数が減少している旨強調した。不法移民対策に関しては、ヤンシャ首相は国境保護の強化、EU対外国境を有する国へのEUによる共同支援を呼びかけ、両首相はEU内部の検問地点を撤去するためにはEU外部国境を守ることが重要である旨一致した。

また、クルツ首相は、パホル大統領とも会談を行った。パホル大統領は、オーストリア政府が少数民族に関する問題解決のために発表したプログラムを歓迎し、同プログラムに記載された措置が法令化されることを期待すると述べ、クルツ首相も法令化に向けた意欲を示した。

そのほか、クルツ首相はスロベニア滞在中、ヤンシャ首相とともにスロベニア最高峰のトリグラウ山の登山を行った。



(Photo: Office of the Prime Minister)

●テラン・ワイン訴訟、欧州第一審裁判所がスロベニアの訴えを棄却【9日】

クロアチアにテラン・ワインの名称使用を条件付きで認めた欧州委員会規則は不当であるとして、スロベニアが同規則の廃止を求めてEU裁判所に訴訟を起こしている事案に関し、EU第一審裁判所は、スロベニアの訴えを棄却した。本判決を受けて、テラン・ワインを製造するスロベニアのワイン農家は、政府が控訴することを期待すると述べるとともに、本判決で如何にワイン農家が影響を受けるかをヤンシャ首相と面会して説明したいと述べた。本判決を受けて、スロベニアは2か月以内であれば欧州司法裁判所への控訴が可能であるが、判決が出た直後の時点では、スロベニア当局は今後の対応を決めるにあたり、まずは判決を精査すると述べるに留まった。

●中欧諸国外相の非公式会合開催【15日】

ロガル外相は、ブルドーにおいてシャレンベルク・オーストリア欧州・国際担当相、ペトシーチェク・チェコ外相、コルチョク・スロバキア外務・欧州問題相を招いた非公式会合を開催した。同会合において、各外相らは、中欧地域における協力関係の深化へのコミットメントを再確認したほか、新型コロナウイルス対応について協議を行い、同感染症の封じ込め及び社会経済的影響の緩和のために各国間でより調整された対策を講じるために、今後局長レベルでの定期会合を実施していくことで一致した。また、参加者は、経済分野での協力についても議論し、三海域協力イニシアティブを含め、中東欧地域における様々なフォーラムを通じた協力の可能性等について意見交換を行った。

●ギリシャ外相のスロベニア訪問【18日】

18日、ギリシャのデンディアス外相がスロベニアを公式訪問し、ロガル外相との間で会談を行った。両外相は、スロベニアのEU議長国就任に係る準備において緊密な協力を行っていくことで一致したほか、地中海に接するEU及びNATO加盟国である両国は、様々な問題に対して共通の見解を有していることを指摘した。両外相は東地中海情勢についても意見交換を行い、ロガル外相は同地域の状況が悪化していることへの懸念を表明しつつ、平和的解決への期待を表明した。また、両外相は、地中海地域におけるより緊密な協力の必要性及び期待を強調した。デンディアス外相は、地中海の国が形成する非公式グループであるMED7（注：ギリシャ、キプロス、仏、伊、マルタ、ポルトガル、スペインの7か国が参加）へのスロベニアによる参加要請に満足の意を表するとともに支持を表明した。その他、両外相は移民問題、大規模火災が発生したギリシャのレスボス島への支援、新型コロナウイルス対策等について意見交換を行った。

● バッハIOC会長のスロベニア訪問【21日】

21日、国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長がスロベニアを訪問した。バッハ会長は、リュブリャナ郊外のタツェンにおいてスロベニア人アスリートと面会したほか、ヤンシャ首相及びスロベニアのスポーツ関係者との会談、IOCを代表して経済的に恵まれない家庭出身のアスリートを支援するミロ・ツェラル基金への5万ドルの寄付、スロベニアオリンピック委員会会長を歴任し、本年6月1日に他界するまで欧州オリンピック委員会会長を務めたヤネズ・コツィヤンチツ氏の墓への訪問等を行った。

スロベニア人アスリートと面会したバッハ会長は、「スロベニアは国土や人口といった面では小国であるが、冬季・夏季スポーツ、個人競技・団体競技を問わず国際大会で活躍するスポーツ大国である」と述べた。また、同会長は、「IOCは、新型コロナウイルスの流行により2021年に延期となった東京オリンピック開催に向けて、選手村や競技会場の準備が整うよう最善を尽くす予定である」と述べたほか、「IOCは組織委員会及び日本政府と共に、観客の有無、開催準備や開催期間中の条件、競技会などに関し、様々な状況を想定し取り組んでいる」と述べた。

また、同会長は、ヤンシャ首相との会談後、「我々は不安定な時代に生きているが、来年のオリンピックは、希望、楽観、連帯、団結を示す大きな光となるだろう」と述べたほか、日本の菅新総理とは未だ会談を行っていないことを認めつつ、就任翌日に菅総理からメッセージが届いたことを明かし、「日本の新総理は、安倍前総理の業務を継続し、オリンピックを成功させると約束した」と述べた。



(Photo: www.olympic.si)

● パホル大統領がフランスを訪問【21日】

21日、パホル大統領はフランスを訪問し、マクロン大統領と会談を行った。会談後、パホル大統領は記者団に対し、マクロン大統領との間で欧州市民の期待に応えるための新たなEU像について意見交換を行ったと述べ、スロベニアと仏はEUの将来について多くの共通の見解を有していると述べた。また、マク

ロン仏大統領は、我々は一層の主権、団結、民主主義を共有する欧州という共通の目標を有していると述べ、EUの将来に関する積極的な対話を行うため緊密に協力していくことで一致したと述べた。また、同大統領は、西バルカン地域の安定も重要である旨強調し、同地域に対する取組についても将来的な両国の協力事項となる旨述べた。

● パホル大統領、国連総会で演説【24日】

24日、パホル大統領は、オンラインで行われた国連総会一般討論演説に参加した。同大統領は、多国籍協調主義、技術発展及びセキュリティ、環境及び生物多様性、連帯及び人権、そして国連創設75周年といったテーマを中心に演説を行った。同大統領は、現在存命するナチス強制収容所の生存者の中で最高齢であり、107歳となった今もあらゆる全体主義を強く非難し続けるスロベニア人作家ボリス・パホル氏の言葉を引用し、演説を締めくくった。

● パホル大統領が北マケドニアを訪問【25日～26日】

25日～26日、パホル大統領は北マケドニアを訪問した。25日、パホル大統領は、ペンダロフスキ・北マケドニア大統領と会談し、両国の友好関係を確認したほか、地域協力及び地域情勢に関する意見交換を行った。また、会談後の記者会見において、パホル大統領は、北マケドニアがギリシャとの間で国名問題に関する合意を達成したことを指摘し、EUは約束を守り、（EU加盟交渉開始に関する）政府間会合の遅延なき開催を求めた。同日、パホル大統領は、ザエフ首相及びジャフェリ・北マケドニア議会議長と会談し、マケドニア議会で演説を行ったほか、26日には北マケドニアの南部国境で不法移民対策支援を行っているスロベニアの警察官と面会した後、北マケドニア軍特殊部隊のデモ演習を視察した。

経済

【経済一般、指標・統計】

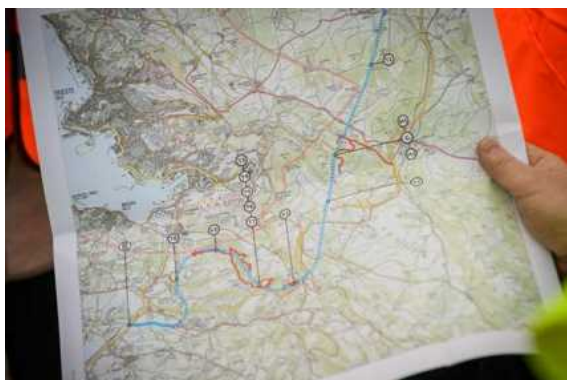
●マクロ経済分析研究所、本年のGDP成長率予測値を上方修正【24日】

政府系シンクタンクのマクロ経済分析発展研究所(IMAD)は、最新の経済見通しを発表した。それによると、本年のスロベニアの経済成長予測値はマイナス6.7%で、本年夏に同研究所が発表した数値(マイナス7.6%)から若干の上方修正となった。IMADは、依然として不確実性は高いとしつつも、再度のロックダウン等の経済活動に影響を与える措置が今後行われないと仮定した場合、経済活動は2022年までに新型コロナウイルス流行前の水準に戻ると予測している。なお、IMADの予測によると、来年は5.1%、2022年は3.7%のプラス成長が見込まれている。

【企業、産業の動向】

●コペル・ディヴァチャ間第二鉄道建設計画：欧州委員会が結束基金からの支出を承認【8日】

欧州委員会は、コペル＝ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画に関する共同融資について、結束基金より8千万ユーロを支出することを承認した。同資金は、計画されている鉄道路線上のトンネル及び高架橋2本の建設に使用される予定。フェレイラ結束改革担当欧州委員は、同計画はスロベニアにおける鉄道網を発展させるのみならず、需要の高まっているEU域内市場における主要回廊と海洋路線との連結を促進するものであると述べた。



(Photo: Nebokša Tejić/STA)

●リュブリャナ大学機械工学部と広東石油化工学院の間の先端知的生産における協力合意【15日】

リュブリャナ大学機械工学部は広東石油化工学院との間で先端材料の知的生産に関する研究施設を広東省に設置することで合意した。先端材料知的生産研究所(AMIMRI)は両大学の協力で2023年までに設置される予定で、両大学は、スロベニアと中国と

の間で、産学連携における双方向の知見共有、AMIMRIにおける実験室の設置、ミネラルウール技術に係る博士課程の設立、スロベニア・中国間の共同研究プロジェクト、特許や科学論文における研究結果の発表等で協力する予定。リュブリャナ大学機械工学部によると、同学部は中国のミネラルウール市場のリサーチを行い、新たな企業とネットワークを構築することを予定している。中国側は、今後3年間にわたってスロベニア側研究者の費用30万ユーロ及び施設建設用の資材費25万ユーロを提供する予定。協力合意のオンライン署名式には、スロベニアのミネラルウール絶縁体の製造企業2社の代表者も同席し、協力の強い関心を示した。

●スロベニア・中国ビジネス協会が発足【28日】

28日、スロベニア商工会議所において、スロベニア・中国ビジネス協会(SKPS)の発足式が行われた。同協会の目的は、スロベニア・中国間の協力及び良好なビジネス関係の強化であり、30以上のメンバーが設立に参加した。同協会は、スロベニア商工会議所の中央地域支部内に所属する。式典において、シムツ商工会議所事務局長は、スロベニア企業は世界と協力する必要がある、国際ビジネスへの関与は付加価値創造の観点から極めて重要であると述べたほか、中国はアジアにおけるスロベニアの最大の貿易パートナーであり、スロベニア商工会議所はSKPS設立を歓迎すると述べた。また、同協会の会長に就任したヴァウポティチ氏(2017年に中国企業が買収したスロベニアのゲーム開発企業「Outfit7」社会長)は、設立メンバーの多くが両国の関係促進の重要性につき言及していると述べつつ、中国は世界第二位の経済大国であり、中国とビジネスを行うスロベニアの企業及び個人が集まって情報交換を行うことはスロベニアの利益となる旨述べた。

新型コロナウイルス関連情報

●9月末時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

9月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計5690名で、死者は計150名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している30日時点での地域別感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	1741
ドレンスカ・ベラクライナ地方	332
サヴィンスカ地方	951
ポドラウスカ地方	710
ゴレンスカ地方	446
ポムルスカ地方	355
オバルノ・クラシカ地方	127
ゴリシュカ地方	142
コロシュカ地方	281
プリモルスコ・ノトランスカ地方	206
ポサウスカ地方	97
ザサウスカ地方	229
その他調査中	73

●接触確認アプリ、アップルユーザーも使用可能に【1日】

1日、公共行政省は、8月17日にグーグルプレイにおいてアンドロイドユーザーによるダウンロードが開始されたスロベニアの接触確認アプリに関し、iOSが搭載されている機器についても使用が可能となった旨発表した。同アプリは、アップル社が運営する「App Store」でダウンロードが可能。

●政府、感染予防の徹底を呼びかけ【4日】

政府は、一部例外を除くすべての屋内公共スペース（公共交通機関を含む）におけるマスクの着用、手の消毒等の感染予防措置の徹底を改めて呼びかけた。違反の場合には、400～4,000ユーロの罰金が科される可能性がある。

●マスク着用義務範囲が拡大【19日】

政府はマスク着用義務の範囲を拡大し、屋外であっても市場や都市の中心部等、多くの人が集まる公共スペースにおけるマスク着用義務を導入した。また、学校において教室内のマスク着用義務の対象が拡大された。

●飲食店等の営業時間制限【21日】

政府は、国内での感染状況の悪化を踏まえ、レストラン及びバー等の飲食店の営業時間を9月21日より、午前6時から午後10時30分の間に制限することを決定した。

23日、政府は、飲食店の営業時間に関する規制を若干緩和し、客の退店時間について、スナックやドリンク等の簡易な飲食物を提供するバー等については午後10時30分から30分以内、料理等を提供するレストランについては午後10時30分から1時間以内とした。

●入国に際する自主隔離要件等の変更【28日】

政府は、入国措置等に関する政令を大幅に変更した。変更後の概要は以下のとおり。

(1) イエロー国の名称をオレンジ国

これまで、自由往来国（グリーン）、制限国（レッド）のいずれのリストにも掲載されていない国はイエローと呼ばれていたが、今度はオレンジが名称となる。

(2) グリーン国からの入国

グリーン国からの入国については引き続き自主隔離が免除される。また、スロベニア入国直前の14日間にグリーン国に滞在していたことが証明できる者については、同様にグリーン国から入国するものと見なされる。

(3) オレンジ国及びレッド国からの入国

オレンジ国及びレッド国に居住する者がスロベニアに入国する場合は、10日間の自主隔離が引き続き必要。他方、48時間以内にEU、シェンゲン、スロベニアのいずれかで発行された陰性証明書が提示できる者は、入国の自主隔離は免除される。

(4) 自主隔離免除事項

陰性証明書の提示及び自主隔離が不要となる例外事項は以下のとおり。

- ・越境労働者（日毎）
- ・交通分野の運転手
- ・運輸分野の運転手。トランジットの場合は、12時間以内に出国する。
- ・トランジット目的で、入国時点から12時間以内にスロベニアを出国する者
- ・外交旅券保持者
- ・スロベニア当局の公式招待等により入国する外国代表団メンバー
- ・外国捜査当局関係者（警察または司法当局）で、業務執行後直ちに出国する者
- ・スロベニア軍、警察等の一員で、国外での任務を終えて帰国する者及び外国出張から帰国する政府職員（陰性証明書が必要）
- ・学業、教育、科学研究活動のため入国することを証明できる者。学生の両親または運転手については

入国時点から24時間以内にスロベニアを出国する者。

- ・延期が困難な緊急を要する私のおよびビジネスに関する用事のため入国する必要性を証明できる者で、用事にかかる最低限の時間でかつ48時間以内に出国する者
- ・救急車もしくはその他に医療車両で搬送されてくる者及び付き添いの医療従事者
- ・スロベニアを含むEU及びシェンゲン加盟国内において医師による緊急の診察・手術があることを証明できる者で、診察・手術後に健康状態の許す限り可能な限り早急にスロベニアを出国する者

(5) 隣国からの入国の際の免除事項

隣国から入国する場合には、上記2(3)の12項目に加え、以下の3項目も免除事項となる。

- ・国境地域で土地を所有・使用する者で、農林業を行う目的に国境を通過する者(本項目は近親にも適用される)
- ・スロベニア国籍者及びスロベニアに在住する外国人で、隣国に不動産、(宿泊が可能な)船舶、またはオートキャンプで利用する土地の使用権、リース権、レンタル権等を有し、そのことを証明できる者かつ48時間以内にスロベニアに帰国する者
- ・隣国に農業用地を所有またはリースしているスロベニア国籍者及びスロベニアに在住する外国人の農産品の収穫を支援することを証明できる者で、24時間以内にスロベニアに帰国する者

(5) EU・シェンゲン加盟国のオレンジ国から入国する際の免除事項

EU・シェンゲン加盟国のオレンジ国から入国する場合は、入国の際の陰性証明書の提示・自主隔離が免除される。

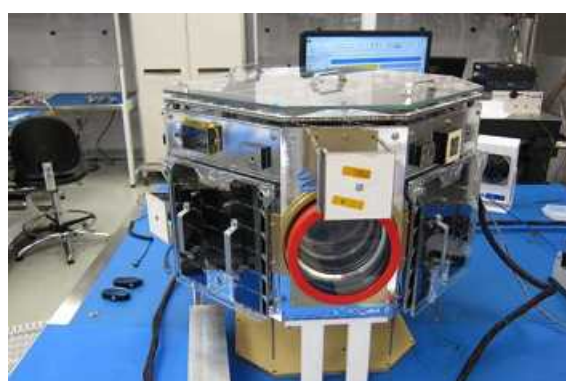
(6) 検査

自主隔離中も検査の実施は可能。検査の結果、陰性が証明された場合、自主隔離は解除される。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア初の衛星、打ち上げに成功【3日】

スロベニア初の衛星「Trisat」及び「Nemo HD」の打ち上げが成功した。スロベニアの衛星は、他の13か国の衛星とともに欧州の打ち上げ専門会社であるアリアン・スペース社が打ち上げたロケットに搭載され、同ロケットは仏領ギアナから発射された。スロベニアの衛星はすでに軌道に乗っており、Nemo HDは地球上空515キロ、Trisatは地球上空530キロで循環している。本件開発に携わっているマリボル大学は、10年以上の開発期間を経て、打ち上げが成功したことを誇りに思っている旨述べるとともに、来年には新たな衛星の打ち上げを計画していると述べた。



スロベニアの衛星「Nemo HD」

(Photo: SPACE-SI)

●夏季休暇、スロベニア人の36%が国内で過ごす【6日】

スロベニア自動車協会(AMZS)は、本年の夏季休暇に関する調査結果を発表した。同調査は7月15日～8月15日の期間に約600名を対象に行われたもので、夏季休暇をスロベニア国内で過ごす回答した割合は36%であった。AMZSは、過去数年に比較できる数字はないものの、以前の調査では国内で過ごしたスロベニア人が約25%であったことから、新型コロナウイルスの影響及び政府が発行した観光クーポンの影響により国内で夏季休暇を過ごす割合が例年より多いのではないかと予測している。なお、夏季休暇の期間については、1週間との回答が最も多く40%、2週間が30%強、3週間が10%、それ以上が7%との回答となっている。また、休暇の交通手段については、本年は航空便をはじめとした交通機関での移動に制限があることから、約85%が自家用車と回答した。

●スロベニア最初の女性作家の童話、出版【9日】

スロベニアの最初の女性作家であるヨシピナ・ウルバンチッチ＝トゥルノグライスカ(1833-1854)が書

いた少女兵のおとぎ話が、執筆されてから約170年を経て、出版された。1852年に執筆された「Rožmanova Lenčica」は、祖国を守るためにトルコ人との戦争に行くことを決意した勇敢な少女レンチツァの物語。入手可能な情報から判断すると、トゥルノグライスカは最初のスロベニア人女性童話作家である可能性が高いとのこと。



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

●ツール・ド・フランス2020、スロベニア人選手が優勝【20日】

伝統ある自転車ロードレースであるツール・ド・フランスにおいて、若干21歳のスロベニア人、タデイ・ポガチャル選手が個人総合優勝を果たした。優勝を飾ったポガチャル選手は、「パリで表彰台の一番上に立っていることは信じられない。ここに立てるとは思ってもいなかった。レースの準備に参加してくれた仲間、チームメート、そして家族に感謝したい」と喜びの声を上げた。また、同レースの個人総合第2位にもスロベニア人のプリモジュ・ログリッチ選手が入り、伝統ある自転車ロードレースであるツール・ド・フランスでスロベニア人選手が1位と2位に入る快挙となった。



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

発見！スロベニア

リュブリャナの「追悼と友情の軌跡」を歩く

皆様は首都リュブリャナにある「追悼と友情の軌跡 (Pot Spominov in Tovarištva)」と呼ばれるトレイルコースをご存じでしょうか。

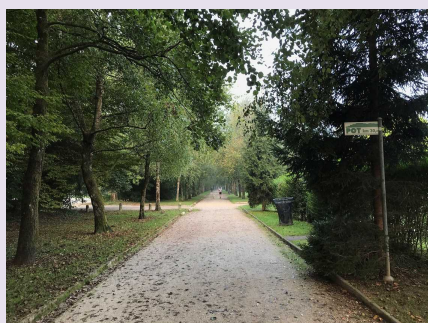
同コースは、第二次世界大戦中に侵略したイタリア軍が、リュブリャナの地下解放組織と外部との連絡を遮断するために築いた有刺鉄線が設置された箇所を回るもので、別名「鉄線の道 (Pot ob Žici)」とも呼ばれています。ちょうど環状線の内側を沿ってリュブリャナを1週するような形状となっている全長32.5kmの散歩コースです。



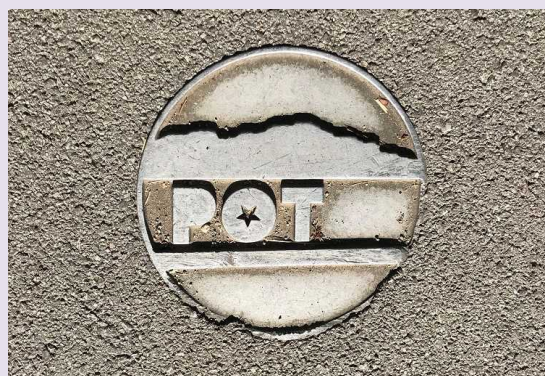
(出典: Mapdata:OpenStreetMap)

一応のスタート地点(0km地点)は、ヴィチ地区トリエステ通り(Tržaška Cesta)にあるマリボル信用銀行(Nova KBM)及びトヨタ販売店の近くのポイントですが、環状コースですので、コース上のどの地点からスタートしても散歩を楽しむことができます。

全長32.5kmのコースの内、大部分は美しい並木道や市街地で構成されており、道中ではリュブリャナ中央墓地(Žale Cemetery)、コセゼ池(Koseški bajer)といった名所を通ります。また、並木道及び市街地部分は基本的に平地ですので、激しい起伏もなく、歩きやすいコースと言えます。また、途中迷いそうになった際には、道を示す標識と地面に埋め込まれた「Pot」と書かれたマンホールが目印となります。



道中の並木道(30km地点)



「Pot」と書かれたマンホールは市街地部分でとても頼りになる目印

一方、リュブリャナ東部の21km地点から数キロはゴロヴェツ(Golovec)の山道を通ります。21km歩いて疲れた体にはここが一番の難所となります。また、山道ではこれまで目印に使われていたマンホールが見当たりません。ここで頼りになる目印が、第二次大戦中に掩蔽壕があった箇所に設置されている石柱記念碑。山道では、石柱記念碑を目印に進んでいくことになります。



石柱記念碑

この歴史の詰まったトレイルコース「追悼と友情の軌跡」。ある週末に大使館の一部有志で全長32.5kmのウォーキングに挑戦してみました。朝7:20にスタートし、数回の休憩を挟んでゴールしたのは夜19:00。翌日は全員が関節痛、筋肉痛に襲われたことは言うまでもありません。

体力自慢の方、そして新型コロナウイルスの影響で運動不足を実感している方は、一度挑戦されてみてはいかがでしょうか？いつもとは違ったリュブリャナの景色を発見できることでしょう。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website.jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

- 政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>
- 政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)
- 外務省: <https://twitter.com/mzzrs>
(主にスロベニア語)
- 保健省: <https://twitter.com/minzdravje>
(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

- 国際交流基金海外巡回展「超絶技巧の日本」開催

10月7日(水)から10月28日(水)にかけて、スロベニア南東部のコチェウイエ市において、「超絶技巧の日本」展を開催しています。ジオラマや食品サンプルといったユニークな作品をはじめ、日本独特のまさに超絶技巧を紹介する展示です。

開催場所:コチェウイエ市地域博物館 Pokrajinski muzej Kočevje / Kočevje Regional Museum

住所: Prešernova ulica 11, 1330 Kočevje

* 来館の際には新型コロナウイルス感染防止のためのマスク着用とともに、ソーシャルディスタンスの確保にご協力ください。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のための国内規制により、博物館の開館時間等が変更となる場合がありますのでご注意ください。

- 最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>